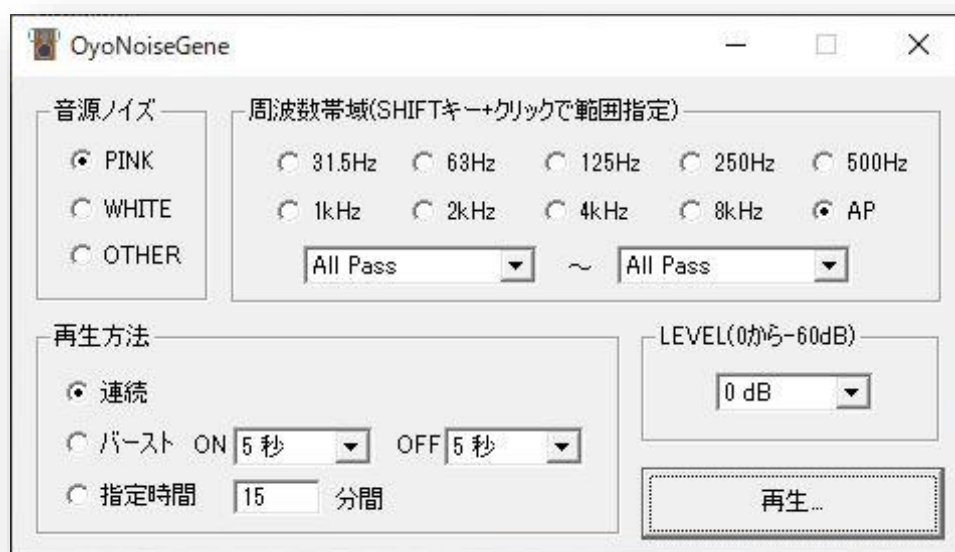


令和 4 年 6 月 9 日

## 雑音発生プログラム『OyoNoiseGene』

『OyoNoiseGene』は雑音発生プログラムです。

室間音圧レベル差測定などの遮音性能測定に使用可能だと思います。



周波数帯域のラジオボタンは **SHIFT** キーを押しながらクリックすると以下のように範囲指定できます。キーボードで周波数帯域を指定する場合はドロップダウンリストで指定してください。



「再生...」ボタンでノイズを再生できます。音量はオーディオデバイスに依存します。基本はオーディオデバイスの **LINE** 出力を使用して画面の「**LEVEL**」で音量を調整します。オーディオデバイスに **LINE** 出力がなくてヘッドフォン端子を使用する場合は「**LEVEL**」を 0dB 固定にしてオーディオデバイスのボリュームで音量を調整しますが、音声信号を増幅しすぎて機器を破損させないようにボリュームを最小からはじめて徐々に上げるようにしてください。

## 仕様

- ・ 31.5Hz、63Hz、125Hz、250Hz、500Hz、1kHz、2kHz、4kHz、8kHz はオクターブバンドノイズです。単一または範囲指定が可能です。
- ・ AP（オールパス）は 20Hz~20kHz の周波数範囲で出力します。
- ・ **LEVEL** は 0dB から -60dB を 2dB ステップで選択でき、0dB が最大音量です。
- ・ 再生方法のバースト（間欠繰り返し出力）は、ON 時間と OFF 時間を 1 秒ステップで 1 から 9 秒間設定可能です。

## メモ

- ・「PINK (ピンクノイズ)」と「WHITE (ホワイトノイズ)」は、実行モジュールと同じフォルダの"Pink.wav"と"White.wav"になります。「OTHER」は"Other.wav"です（デフォルトの"Other.wav"は M 系列ノイズを入れてあります）。好みの音源に差し替え可能です。但し、これらの Wave ファイルは IEEE float 型モノラル Wave ファイルでサンプリング周波数を 44.1kHz にしてください。Wave ファイルの時間長はデフォルトで 15 秒にしています。時間長に決まりはありませんが、短いと繰り返し再生の回数が多くなり、長いとフィルタ処理に時間がかかります（フィルタ処理は最初の 1 回だけです）。
- ・再生データは Wave ファイルで実行モジュールと同じフォルダの"Data"フォルダ内に保存されます。再利用しますので、もし"Pink.wav"、"White.wav"、"Other.wav"を入れ替えた場合は削除してください。
- ・"OyoWavConvertHz.dll"と"WaveFir.dll"が別途必要です。

以上